

学生が子ども対象「環境教育」に挑戦

ふじみ野キャンパスに設置された「環境教育研究センター」（中山智晴センター長／人間学部教授）に所属する学生たちが、森下英美子研究員の指導のもと、児童を対象とした環境教育に取り組んでいます。

森のムツレ教室&少年少女環境教室

10月1日からふじみ野
キャンパス内で行ってきた
スウェーデン発児童対象の
環境教育「森のムツレ教室」
には、パン生地を巻いて焚き火
器や棒を作製して提供。器
にはシチューを入れ、竹棒

in及びみ野」が、1月1日に最終回を迎えた。

生文庫の「少年少女環境教室」と合同でファイナル

ハ、テ、
を開催し
た。地元の「自然塾」(大

地圖他志

A young child wearing a bright blue zip-up jacket and a green knit hat is sitting on the ground, surrounded by fallen brown leaves. The child is looking down at their hands, which are partially hidden in the leaves. The background is filled with more fallen leaves.

A group of children wearing green hats and blue jackets are sitting on the ground, surrounded by fallen leaves. They appear to be engaged in a nature activity or observation.

「森のクニューたナ」 落ち葉まみれで遊ぶ園児



「森のムッレ」
竹に巻いたパンを焼いてワクワク

師役は、吉池和代さん（共生社会学科3年）、成川奈緒美さん（同）、中村龍之介さん（同）、染谷美希さん（コミニュニケーション社会学科）が園児を見せる上で、落ち葉を放した。事前に、落ち葉の放射線量を測って基準値以下であることを確認。園児たちは「落ち葉ってあつたかいね」「カフカだね」などの感想が聞かれ、自然の素晴らしさを満喫した様子でした。

森のクニユータナ教室

11月29日、30日、2年)、宮下景圭さん(心理学科1年)。両日とも「落ち葉の山」で遊びました。

この企画はぜひ実現したかった!」リピングで展開したい」と笑顔。同教室を運営現地の教員からも「希望の声が上がりました。

室を指導する森下研
は、「自然塾の皆さん
も実施。日本人駐在員の子
どもたちを対象にしました
が、地元NGOも見学に来
ました。」(写真左)「アフ

焼きに挑戦し、香ば
立パンを頬張り
する試みも始まりました。
森下研究員は11月に、東
南アジア初となる「森のム

この日は、心理臨床・福音センター「ほっと」の職員・久保田絢子さんも参加し、子育ての悩みなどに対応。専門性の高い大学の教育機関が連携し、様々な角度から地域住民をサポートする。来ない体験をしまし
どもたちは真剣な顔

分木

「森のムッレ」
竹に巻いたパンを焼いてワクワク

師役は、吉池和代さん（共生社会学科3年）、成川奈緒美さん（同）、中村龍之介さん（同）、染谷美希さん（コミニュニケーション社会学科）でした。

シの幼虫を発見！ その現象を園児に見せることで然の循環を学ばせたくて、「落ち葉」をツールにしました。事前に、落ち葉の放した。事前に、落ち葉の放してあることを確認。園児からは「落ち葉ってあつたかいね」「カフルカだね」などの感想が聞かれ、自然の素晴らしさを満喫した様子でした。